

28年4月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年4月1日～ 28年4月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は12社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/4月	5月	6月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 13.6	△ 18.2	△ 22.7
	マツ	△ 22.7	△ 27.3	△ 31.8
	広葉樹	0.0	△ 16.7	△ 12.5
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 30.0	△ 10.0
	マツ	△ 35.0	△ 30.0	△ 30.0
	広葉樹	△ 5.0	△ 11.1	0.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 4.5	0.0	△ 13.6
	マツ	△ 22.7	△ 27.3	△ 31.8
	広葉樹	△ 8.3	△ 8.3	△ 16.7

・チップ用国産原木の入荷、消費及び在庫は、一部樹種や一部月に横ばいがあるものの、総じて3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/4月	5月	6月
スギ・ヒノキ	0.0	0.0	0.0
マツ類	4.5	4.5	4.5
広葉樹	0.0	4.2	4.2

・チップ用国産原木の購入価格は、総じて横ばいしないしやや強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・各地でバイオマス発電が稼動し、入荷が減少すると思う。消費は、製紙会社の在庫調整のため4月は半分に減少（北海道）。

・スギ、マツはシステム販売終了とともに入荷減、広葉樹は季節的要因もあり、針葉樹伐採から広葉樹へ移行しているため増加傾向（東北）。

・今年は雪の量が案外少なく、山仕事が早まって原木入荷量が多くなって来た。弊社への原木入荷会社で、針葉樹を生産しているところが、バイオマスの工場分を弊社に持って来るようになった。いつまで続くか分からないが（中部）。

・森林組合の現場から間伐材購入の予定。需要は順調（中部）。

・原木の動き良好。消費・在庫は横ばい（中国）。

・当月、翌月の仕入動向は横ばい、翌々月は伐採時期が悪くなるのでやや減少。製紙会社チップ制限があったが、元に戻り消費は横ばい。在庫は、先月のチップ制限で当月はやや増、翌月は元に戻ったことで横ばい、翌々月入荷減が考えられやや減少（四国）。

・スギ、ヒノキは、3月の年度末だったためか入荷が多く、4月はやや減少、通常並み。広葉樹はそれ程変化なし。スギ、ヒノキは製紙用・燃料用共に消費増、5月は出荷先の年次点検で減産。広葉樹も5月は年次点検の影響を受ける。スギ、ヒノキは消費増で在庫は減る。燃料用は乾燥のための在庫量は維持。広葉樹は適量の在庫（九州）。

・広葉樹材が入りにくい。仕入に応じた生産（九州）。

(原木価格)

・燃料チップ材の価格は、上昇が一旦落ち着いたものの引き続き上昇気味（全樹種）（東北）。

・横ばい（中部）。

・変動なし（中国）

・しばらく変化なし。システム販売材は製紙用・燃料用共にわずかに上がった（九州）。

28年4月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/4月	5月	6月
生産 動向	スギ・ヒノキ	△ 10.0	△ 20.0	0.0
	マツ類	△ 40.0	△ 35.0	△ 35.0
	広葉樹	△ 9.1	△ 13.6	△ 4.5
出荷 動向	スギ・ヒノキ	△ 10.0	△ 20.0	0.0
	マツ類	△ 36.4	△ 31.8	△ 31.8
	広葉樹	△ 4.5	△ 9.1	0.0
在庫 動向	スギ・ヒノキ	△ 5.6	△ 16.7	△ 22.2
	マツ類	△ 27.8	△ 38.9	△ 38.9
	広葉樹	△ 25.0	△ 30.0	△ 30.0

・木材チップの生産、出荷及び在庫は、一部樹種や一部月に横ばいがあるものの、総じて3ヵ月連続して減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	28/4月	5月	6月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格は、3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・生産・出荷は、製紙会社の在庫増で4月は減少（北海道）。
- ・広葉樹は入荷増加により、出荷の増加が見込まれる（東北）。
- ・需要は大きいが入荷に合わせた生産、出荷となり、荷動きは必然的に決まる（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・製紙会社のチップ受入抑制が元に戻り、生産横ばい。出荷は先月と比べやや増加、翌月、翌々月は安定出荷にて横ばい。
- ・4月は製紙用、発電用共に針葉樹は増産、5月は年次点検で減産。広葉樹は影響少ない（九州）。

(木材チップ価格)

- ・価格変わらず（東北）。
- ・横ばい（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・しばらく変化なし（九州）。
- ・広葉樹、現状維持（九州）。